

天文学

天文学者

## 自分を大切に星の研究!

新田敦子 (Gemini 天文台 Assistant Scientist)

## 仕事の内容とやりがい

星、銀河は見た目にも美しく心惹かれるものです。その研究ができる仕事を持つのはラッキーだと思っています。新しい発見はいつでもうれしいものです。世界に発表される前に自分が一番に新しいことを知っている時がドキドキします。ちなみに私が携わった研究プロジェクトの一つの成功の成果として、このプロジェクトで発見した小惑星に「Nitta」と自分の名前がつけられました。天文台の仕事は自分だけでなく世界中の天文学者の研究のための観測をサポートするものです。観測の後私のサポートのおかげでうまくいいデータがとれ、良い結果につながったと言われるのはやりがいを感じます。私は他の人と一緒に働くのが好きです。天文台の仕事はエンジニア(ソフト、ハード両方)との連携も大切。チームとして仕事をするのでそれがうまくいった時も嬉しいものです。

## 仕事と生活のバランス

自然は休暇がないので、天文台ももちろん年中無休で運用します。ということはみんなで週末や休日でも交代で働かないといけないということです。これは独身の時は良いけれど、家族がいると自分だけでなく、家族に負担がかかります。また私は夜中でも山頂にある望遠鏡で働く学者から電話がかかってくることもあります。効率を考え、何が大事かを常に見極めて仕事をしています。大事でないことはやらない、心配しない。これは家事も同じです。今運動不足なのでどうやって運動の時間を取り入れるかが次の課題です。

## 進路決定のきっかけ

大学にいくなら自分が知りたい分野を専攻したいと思い、前から興味があった天文学に関係の深い物理に進学を決めました。(ちなみに文系科目の方が成績よかったです。先生、両親は理系に行くのを心配しました。)アメリカの大学院で天文学の良い研究室と出会い、そこで勉強するために物理から天文に転部しました。大学によって天文学を物理学部の一部として専攻できる場所もありますが、テキサス大は大きな大学で別学部。しかも天文台も大学で持っているというところも恵まれた環境でした。

## 進路選択に対してのメッセージ

やってみたいと思う気持ちを大事にしてください。世の中には本当にいろいろな仕事があるからいつでも心を開いて人と世界に接してください。やってみてうまくいくと嬉しい。やってみてうまくいかなかったら違うことすればいい。やって失敗することやらないで後悔するのでは得られるものが違います。様々な経験をして成長するとまたやりたい事が変わっていくのでその度にまた自分の気持ちを自問して尊重していくのが大切です。

## 海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

海外だったから天文学者になれたと思います。自分らしくしていられた点はある意味楽でした。テキサスは資金に恵まれた州だから州立大学も設備が良いです。1m~9mの望遠鏡を運用する天文台を単独で持つ大学は他にないのではと思います。そのお陰で通常以上に観測を学生の頃にできたり、エンジニアと一緒に仕事をする機会も得られて良かったです。研究室を通じて世界中のひとと研究する機会が得られたのも面白い有意義でした。卒業後の仕事でも様々な一流の学者と仕事ができ、いつもいろいろ勉強になります。

## 海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

学者の世界では女性のほうが少ないとはいえ、日本と比べたらとても多く、女性は皆元気です。日本では知らないうちに差別、また差別されてもそれが差別と気がつかない事が多かったように記憶していますが、海外にでてみて日本ではまだまだ女性大変だな、と思いました。ちなみに今いるGemini天文台のハワイ観測所では学者のうち半分近くは女性です。副天文台長も女性です。女性だからといって差別されませんが、甘えもありません。

## 海外留学・勤務を決めたきっかけについて

海外には高校の頃から行きたいという好奇心があったのですが、大学で1年くらいいても語学を必死に身につけようとしている間に終わってしまうかとも思い、大学院で行けるように頑張りました。大学院の修士課程2年の夏に石坂財団からの奨学金(2年)でテキサス大学の大学院へ。テキサス大学からも1学期奨学金をもらいました。夫も天文学者で大学院の先輩です。私より数年早く卒業して他大学でポストドクをしていたので結婚後は別々に暮らしていました。卒業後の最初の仕事は二人のうちいい仕事が取れた方の場所にもう一人も行くことにしようと話していたらApache Point天文台に二人とも就職ができたので運が良かったです。その後二人でまたハワイの天文台に勤務が決まって移りました。

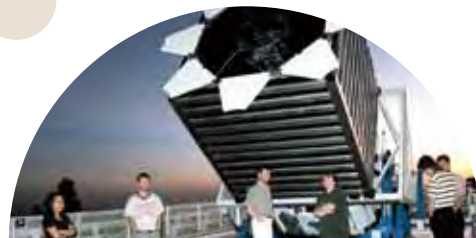
## 滞在先の思い出・生活者としての体験

テキサス大学院で中学費は研究室が出資、生活費はリサーチアシスタント、又はティーチングアシスタントとして給料をもらっていたので奨学金がなくても大丈夫でした。Apache Point天文台は国有林の中にあり、一度森で夕方迷子になって怖かった。日が暮れる前でも森の中は真っ暗になってしまい近くに動物(牛か鹿だったと思う)がいるけど、見えない。立ち止まっているとその動物がおしっこしてその音と臭いがしてきました。熊でなくてよかった。ハワイは日米の良い所を両方持っている所なので日本人にはとても住みやすいです。



<新田敦子(にったあつこ)プロフィール>

東京の私立女子高校からお茶の水女子大物理学科へ。学部卒業後、お茶大の大学院へ進学。石坂財団の奨学金を得て修士課程2年の夏からテキサス大学オースティン校の大学院へ。大学院卒業の1年前に結婚。卒業後Apache Point天文台で5年働きSloan Digital Sky Surveyの第一部(宇宙の地図作りのプロジェクト)の完結をみてから、ハワイにある日本のすばる望遠鏡に半年。そして現在のGemini天文台へ。子供ができずもう諦めていたら結婚10年して念願の長女誕生。忙しく幸せな日々です。



アパッチポイント天文台